

症例を中心とした基礎薬学と臨床を繋ぐ学習デザイン

○村上 理¹, 出口 弘直¹, 平島 光博¹, 木暮 喜久子¹(¹学校法人 医学アカデミー 薬学ゼミナール)

【目的】

臨床現場で使える知識と問題解決能力を持つ薬剤師の育成を目指して、薬学教育は6年制へ移行した。共用試験の導入や病院・薬局実習の充実等が図られ、基礎科目をはじめとした全ての科目をいかに医療や薬剤師業務に結びつけることが出来るのかが問われている。そこで、講師が学生を指導するにあたり、1人1人が科目の壁を越えて医療や薬剤師業務の関わりを理解するための勉強会を実施した。

【手法】

ひとつの症例(疾病)・処方をもとに基礎薬学、衛生薬学、法規制度など多科目の講師が関わる範囲を検討し、薬剤師国家試験コアカリのどの範囲に該当するのかを検証した。今回は、その症例(疾病)・処方勉強会からひとつの症例をあげて検討結果を報告する。

【結果】

今まで有機化学、衛生薬学、法規制度など薬剤師業務と直接結び付けて講義する機会の少ないと思われていた科目でも医療との繋がりを実感することが出来た。

【考察】

変動する薬学教育の中で、今回の取り組みが臨床の場において薬剤師の目線で「チーム医療」に携わる際の基礎知識作りに貢献できることを期待する。